

かけはし



自己肯定感の向上を

自らの存在をかけがえのないものと肯定的に受け止める感情、それが自己肯定感です。この感情が高くなれば、少々のことではめげない意思力、そして自らの潜在的な伸びしろを意欲的に拓こうとする行動力が強くなると言われています。

その向上を図るための推進力は、もちろん子どもたち自身の努力ですが、この推進力に他の力が加われば、子どもたちの自己肯定感は加速度的に向上するのです。その力とは、私たち教職員の働きかけであり、これが生徒指導の重要な役割なのです。そのことを理解していただいた上で、保護者の皆様の働きかけもとても重要なのです。

それでは、どのような働きかけが大切なのでしょう。その姿勢を考える時、教えとなるものがあります。それは、画家の山下清さんが通った施設八幡学園の標語「踏むな 育てよ 水そそげ」です。これは、その子らしさ、その子の伸びしろを踏まず、育てよ、そして、その子その子の成長に必要な水を注げという教えなのではないでしょうか。

さて、私は、次のことを大切にして教育活動をすすめてきました。

- ①どんなときも「あなたの味方」という思いを子どもたちに伝えること
 - ②子どもたちが積み重ねる成功体験を見逃さず、必ず心を入れてほめること
 - ③その子その子の努力の歩みを、成果以上に評価し、認めること
 - ④子どもの思いに傾聴し、それを丸ごと受容すること
 - ⑤「ありがとう」という感謝の意を子どもたちにしっかりと伝えること
 - ⑥子どもたちが「今日もいい日が始まった」と学校生活を迎えることのできる毎日にあること
- 今後も、一人一人の子どもたちに寄り添った生徒指導に努め、自己肯定感を向上できるよう取り組んでいきたいと思っております。



親が本気で叱ることも大切です

子育てのなかで親が悩むことの一つに、悪いことをしたわが子の叱り方があります。「叱るよりも褒めること、長所を伸ばしてあげる」ことは、子育てに限らず、人間関係を築くための原則ですが、子どもが人として間違ったことをしたら、それを叱ることは、親の大切な役目です。叱れない親が、子どもをダメにした例がたくさんあります。お子さんの健全な成長には、親が本気で叱る、説教する、話して聞かせることは避けて通れない道です。

でも次の点にはご注意をお願いします！

- ①暴力を使わない
- ②「何度言ったら分かるの？前もそうだったじゃない」のように終わったことを蒸し返さない
- ③叱る時は具体的に短く
- ④「お母さんは……」のように、主語をつけて話す
- ⑤叱った後のアフターケアも忘れずに

子どもたちは、失敗し叱られて、反省しながら、大人になっていきます。

(文責 山口 正文)